

# サンゴ礁保全再生事業基本構想

## 背景

- ❖サンゴ礁生態系の多様性を保全する国際合意の進展
- ❖サンゴ礁生態系劣化に対する関係者の危機感と県民の関心の高さ

- ❖植え付け等によるサンゴ礁再生活動の増加と企業の参加
- ❖サンゴ群集の再生産能力の減少に対する対策の必要性
- ❖環境教育の場としてのサンゴ礁に対するニーズの高まり

## 事業の目的

豊かなサンゴ礁生態系の保全・再生を推進する

## 実現する課題

- ①生物多様性に配慮した植え付けの実施
- ②増殖・植え付け技術の研究開発と実証

- ③科学的認識と予防的・順応的態度の遵守、管理手法（PDCA）の拡充、ネットワークの拡充
- ④協働による普及啓発の促進

## 解決すべき問題点

### 生物多様性に係る問題点

- ①人為的植え付けによるサンゴの遺伝的攪乱と多様性の喪失への危惧

### 技術的問題点

- ①増殖再生適地(サンゴの生育適地)選定の困難さ
- ②技術は一定のレベルにあるが群集の再生という点では発展途上
- ③有性生殖に必要な技術が高く、生産体制が未整備
- ④低コストで量産する技術が未発達

### 実施体制の問題点

- ①規模が小さく効果を追跡していないものが多い
- ②植え付け後の管理不十分な事例が多い
- ③民間・行政・研究者のネットワークが十分でなく、情報共有が不足
- ④関係者のモチベーションは高いが市町村の関わりが少ない
- ⑤陸域や海域での保全措置との連携が不十分

### 普及啓発上の問題点

- ①植え付けすればサンゴ礁が再生するという誤った認識
- ②植え付けの実態が把握されておらず、集客目的の事例が疑われている

## 事業内容と目標

### サンゴ礁再生に関する調査研究

幼生の拡散経路と地域間のサンゴ群集の遺伝子組成を解析し、遺伝的多様性に配慮した植え付けを行う

### 面的広がりのあるサンゴ植え付けの実証

トレイサビリティを遵守した有性・無性生殖による増殖法を確立するとともに、海域環境に適した植え付け法を予防的・順応的管理手法により確立する

自然公園区である恩納村、座間味村でモデル事業を実施し、多様性に配慮した面的に広がりのあるサンゴ群集を再生

### サンゴ礁保全活動を行う団体への支援

県民や地域と協働したサンゴ礁生態系保全活動を促進する

海洋保護区(MPA)と総合沿岸管理(ICM)により、豊かなサンゴ礁生態系を育む「ちゅら海」を再生

# ロードマップ

22年度 23年度 24年度 25年度 26年度 27年度 28年度

第一段階(フェーズ1)  
基礎的知見の集約と技術の検証・試行

第二段階(フェーズ2)  
植え付けの面的拡大と保全マネジメントの実証

サンゴ礁再生に関する  
調査研究

既往知見  
整理

本島西海岸等での幼生加入調査

漂流ブイ等による幼生拡散経路調査

主要植え付け品種の遺伝子組成把握

サンゴ礁生態系維持機構の調査・研究

面的広がりのある  
サンゴ植え付けの実証

既往知見  
整理

陸域・海域管理体制検討

無性生殖植え付け法の選定

有性生殖法の確立

陸域海域統合管理の実証

無性生殖によるサンゴ群集再生実証

有性生殖によるサンゴ群集再生実証

有性生殖法による種苗生産

中間育成技術の確立

中間育成施設の活用

他地域での実証検討

サンゴ礁保全活動を行う  
団体への支援

既往知見  
整理

保全活動や教育普及プログラム等への支援

## 将来展望

- 植え付け海域で、赤土流出防止等陸域の管理と海洋保護区を組み合わせた総合沿岸管理モデルを確立
- 教育・啓発活動の促進により、サンゴ礁保全に対する県民の理解を増進するとともに企業参加を促す
- サンゴ植え付けと総合沿岸管理を組み合わせたマネジメントを県内に普及

